

# 共創のまち育てフォーラム

～「引き出す、支え合う、共に動く」仕組みづくり～

## 開催報告

湘南 NPO サポートセンターでは、一昨年平塚市と協働で作成した「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」の考え方をもとに昨年度市民・企業とともに探り、これからのひらつかの魅力づくりを語り合う「HIRATSUKA まち・ひと・魅力づくりフォーラム」、高校生・大学生を対象としたワークショップ「次世代まちづくりセミナー」をキックオフした。

今年度はもう少し踏み込んで、共に創っていくために必要となる様々な関係者とのつながりや支え合いの仕組みをどう工夫していくか一緒に考えていくことを目的に「共創のまち育てフォーラム」を開催した。

【開催日】 令和8年3月22日（日）13：30～16：00

【場 所】 平塚市崇善公民館（平塚市見附町1-8）

【参加者】 25名

【主 催】 平塚市、NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター

### （1）基調講演 概要

「まちの資源を活かし、つなげる仕組みを創ること」

宝楽陸寛 氏（(公財)泉北のまちと暮らしを考える財団理事長）



### 〇つながりを地域の力にそして「自走する自治」へ

地域がつながる仕組みの「下ごしらえ」として関係人口の構築が重要であり、つながりを地域の力にするための装置として自治会や中間支援組織が機能することが説明された。

まちづくりのアプローチとして、従来のトップダウン型ではなく、暮らしの現場から制度の隙間や孤立・孤独といった課題を発見し、地域でできることと行政でできることを仕組み化してボトムアップしていく手法を採用している。特に大阪では住民自治側の自治が弱体化しているため、「自走する自治」の構築が重要であると述べた。

茶山台団地での具体的な取り組み事例として、集会所を居場所として開放し、そこから生まれたニーズで惣菜屋を開設し、コミュニティを交差点のように複合化しながら新しいコミュニ

ティビジネスを生み出した。

子供会については、子供たちをお客さんにしない形に変更し、予算と権限を子供たちに与えて自主的の小さい取り組みを顔の見える関係に置き換える、組織のあり方を変える、マイナス要素同士を組み合わせるプラスに転換するなどの解決策を実施している。

### ○テーマに応じたチーム、コーディネータのつながりによる活動の促進

居場所での食を通じたつながりづくりとして、各自が晩御飯を持ち寄って一緒に食べる会を開催した。これを通じて一人暮らしの人への気遣いや気軽な買い物場所の必要性などの地域課題が浮き彫りになった。料理が得意なママさんを中心としたチームが形成された。

DIY 工房プロジェクトでは、工務店の社長との連携により、ボランティアで活動していた住民と企業が協力して新たな居場所を創出した。得意な技術を持つ住民同士のコミュニティが形成され、様々なプロジェクトが次々と生まれる循環が生まれた。

普段の日常からつながりを作り、QOL（生活の質）を向上させることで、何かが起きた時の支え合いができる仕組みづくりの重要性を学んだ。一箇所に集まる従来の居場所づくりから、小さなコミュニティを複数作ってネットワーク化する手法に転換した。

多様な主体が社会資源を組み合わせるつながりづくりには、平時からの活動人口とつながりの構築が重要であると説明された。コーディネータの育成が必要で、「いいお湯加減」を作る様々なタイプのコーディネータが地域には必要である。

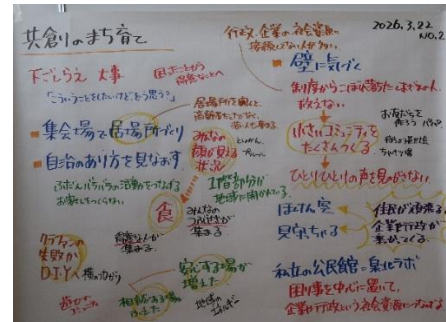
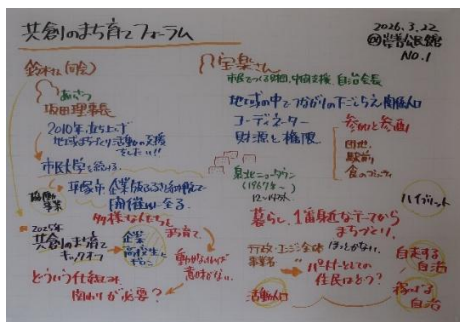
### ○財源と権限の適切なバランス、「いいお湯加減」の仕組みづくりへ

休眠預金を活用するという助成事業では、地域で寄付を集めて助成金を出す活動を行い、一階部分が開かれた居場所と複数の収入源を組み合わせることで、戸建てのフリースクール、団地の空室を活用したプロジェクトなど、様々な居場所プロジェクトが生まれている。

居場所で見えてきた地域課題を放置せずに解決する「実行会議」を設置し、社協、地域包括支援センター、学校の先生など半分行政・半分住民でコーディネートする体制を構築している。

新しい制度として公益信託が4月から開始されることを紹介した。従来は信託銀行のみが現金のみを扱えたが、新制度では個人・法人問わず受託者になれる、現金・土地・建物・知的所有権も扱える。まちづくり会社が空きテナントを信託で預かり、非課税でコミュニティ事業を行うことが可能になる。

様々なタイプのコーディネータが地域には必要である。支援が必要な人々と支援者の孤立を解決するため、「for」ではなく「with」の関係で共に笑いながらつながりを作る地域社会をめざしていくことが大切である。



## (2) クロストーク

「つながる仕組み、支える仕組みを考える」

ゲスト：梶田佳孝 氏（東海大学建築都市学部教授）

沖野太志 氏（神奈川中央交通（株）経営戦略担当課長）

コメンテーター：宝楽陸寛 氏

コーディネータ：鈴木奏到（認定都市プランナー）



### ① 元気・魅力アップ活動への取組み紹介

神奈川中央交通では創業 100 周年を契機に、長期ビジョン「地域価値創造企業」を掲げ、人口減少・少子高齢化という社会課題に対応するため、湘南ベルマーレとの連携したサッカー教室、「うんこドリル」を活用した交通安全教育冊子の作成と交通安全教室の紹介があった。（沖野）

東海大学では自治体と企業から課題を提供してもらい、学生グループで解決策を提案する「ものづくり学生サミット」の取り組み、「共創による地域貢献」をテーマに学生が自ら発想し仲間を集めて実行する「東海チャレンジ」プロジェクトのように「ことづくり」すなわち街づくりにも範囲を拡大していることの紹介があった。（梶田）

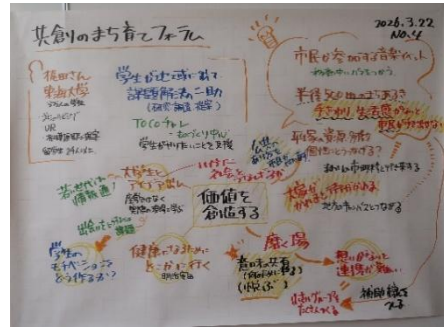
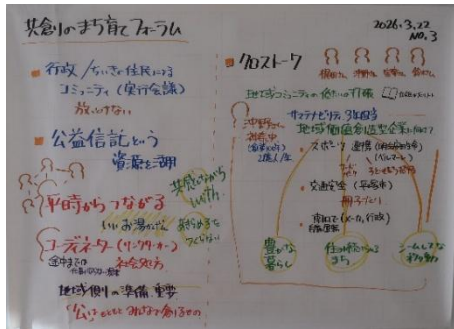
### ② ひらつかの多様な地域資源・個性の“つながりをより高める仕組み”とは？

価値創造と世代間連携の毎年のインターンシップを通じた学生との連携や、明治安田生命と健康をテーマにした取り組みを始めている（沖野）

平塚市だけでなく周辺市町村との連携による相互交流の仕組み作り重要性がますます高まっている（沖野）

学生の地域課題への関心と実践意欲を評価しつつ、マッチングの仕組みづくりが重要、学生の社会実験への積極的参加を通じたコミュニケーション能力向上が地域の価値創造につながっていくのではないかと（梶田）

半径 500 メートルの身近な地域での手触りや生活感を重視した街歩きマップ作成の経験から多様性の中にこそ共創が生まれると実感している（宝楽）



③ 様々な主体が“共に動き、支え合う仕組みづくり”のために必要なことは？

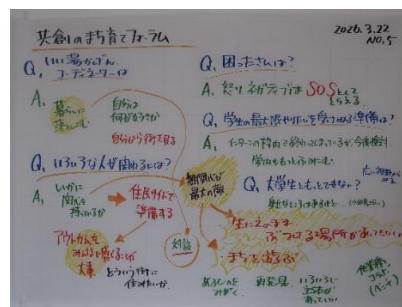
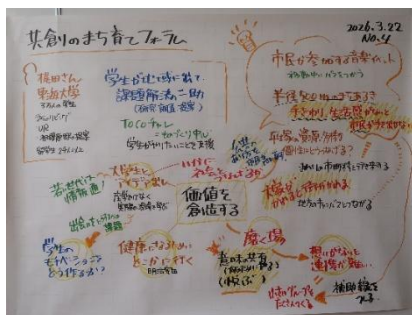
大学生との意見交換の機会を拡大し、路線間の地域間交流企画も考えられる（沖野）  
 学生の自主的な取り組み意欲を評価して魅力的な場と活躍機会の提供していくことでモチベーション向上につながっていく（梶田）  
 これからの試行としてバス会社を公益信託で運営することで、より地域に根ざした議論ができるのではないかと。稼げる公益信託の可能性を活かすのも一策である（宝楽）

● 参加者との意見交換

- ・ 共創の本質は「一人一人がまちづくりに対する思いを持つこと」ではないか、特に対話がまちづくりの根幹であると考え
- ・ 学生の主体的な取り組みを引き出すには、関心事を評価する。試行・実践の場での学びが重要である。
- ・ 平塚の地理的多様性を活かした広域でのまちづくりの視点が駅周辺にも波及する。中高生や小学生のシンプルなアイデアを組み立てることも重要ではないか。
- ・ 「遊び」の重要性、目的を持たない自由な探索の価値がこれからのまちづくりには大切になる。

■ まとめにかえて

- ・ わがこととして“共感”を持てることを積み重ねていくことが大切であると改めて感じた。仕組みづくりに決まった答えはなく、楽しいという思いをつなげ、対話を重ねいくなから生まれてくると思われる。
- ・ これからも一緒にチャレンジしていく機会をつくってきたい。



# 共創のまち育てフォーラム アンケート

2026年3月22日（日） 13:30～16:00

崇善公民館 ホール

一般参加者：25名（回答数15）

## 1 あなたの事を教えてください

### (1) 住所

平塚市内	市外	全体
9	6	15

### (2) 年齢

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	全体
	2	1	5	2	4	1	15

### (3) 本フォーラムは何で知りましたか？

チラシ	湘南NPOのweb	湘南ジャーナル	知人からの紹介	その他	全体
4			4	7	15

市からの案内

## 2 基調講演はいかがでしたか？

とても良かった	まあまあ良かった	難しかった	全体
15			15

## 3 クロストークはいかがでしたか？

とても良かった	まあまあ良かった	難しかった	全体
10	5		15

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	全体
基調講演	とても良かった	2	1	5	2	4	1	15
	まあまあ良かった							
クロストーク	とても良かった	2	1	4	2	1		10
	まあまあ良かった			1		3	1	5

## 意見・感想

### 2 基調講演

つながる仕組みの考え方がよくわかった。自分の地域は行政がもっとしっかり！！との考えを持つ方も一定数おり、住民感情を考えてしまい一歩踏み込めない。もっと地域に入っていきたい。
住民の小さな声を拾い上げ、かつ実際に行動に移していくことの大変さ、こんなに見える形となって作られていくまで、とても色々な壁があったらと思う。どんな壁をどのように乗り越えていったのかの話を聞いてみたい。
どのように住民を巻き込み、持続可能なまちづくり作っていただけるのか、良く学ぶことができました。
地域包括支援センターとしての視点と住民としての視点と、それぞれで参考になった。
担い手がいるという事が良く分かった。
小さいグループを作り、ネットワーク化していくことで様々な取組みが進んでいく仕掛けが新鮮だった。
楽しいまちづくりのエンジンとする。やりたい・チャレンジするという声を拾うためには地位活動の場をつくり、声を引き出す・つなげる・地域の資源を共感し、まちづくりの方向性を市民・企業・行政が同じ方向を向いたまちづくりが必要。
泉北の取組みを知りたかったので、とても良かった。また、貴重な機会を得られた。
まちづくりについて良く分かった。
たくさんの具体的な話を聞けて良かった。
自治会員の減少と災害時のコミュニティの連携に大きな危機感を感じている。大きなヒントを頂いた。
沢山の失敗の上に現在があることがわかり安心したが、種まきが大事であると痛感した。

### 3 クロストーク

大学や企業との包括シエンセンターもつながっていけると地域も活発になるかもと期待感が増した。若者が来て頂くと地域の方も喜ばれ、何らかの教室を開くと参加率も高い。
共創について会社・大学の取組がわかって良かった。
企業や学校として、地域をどのように考えたり関わろうとしているのかを知ることが出来良かった。
若者や社会人との認識の齟齬や考えの違いを良く理解できた。
"悦ぶ"の動機付け話しを伺い地域支援を業務とする立場で地域福祉の担い手の好きな事得意な事は何だろうと改めて思い考えるきっかけになった。
質疑が面白かった。
居場所を多様化するのは重要だと感じた。
平塚市内だけでなく他市町とのつながりも重要。平塚の魅力、プレーヤーとなる市民や企業が楽しいを共感できるまちづくりが重要。
悦びを作る大切さがわかった。
神奈中、東海大学が色々な取組みをされているのが良く分かった。
どうしてもバナナが本音を言えないのは仕方ないが、もっと話しが出来ると良い。
難しいテーマだったが、宝楽さんに救われた。

### 4 その他全般

「まちあるき」の機会があれば参加したい。
もっと市民が広くこのような話しを聞いてくれる機会があったら良いと思う。自分事として考えるきっかけ作りが必要（←これがとても難しい）
地域の課題、必要な資源や活動というようなテーマで小地域ケア会議で、地域住民の様子は「包括（行政）」でやって欲しいという考えの方が多い。担い手不足、疲れを感じるが、包括としては自分事として考え自分事として何か出来ることを主体的に考え行動して欲しいと考えている（どうしたら考えて頂けるのか？）
今日はとても学びになるフォーラムであった。
通りがかりで参加したが、とても参考になる話しを伺う事が出来た。
もう少し自治会との関係性を聞きたかった。
まちづくりを進めるための原点、まちづくりを「楽しむ」仕組みを意識しながら対話を重点に進めていきたい。
平塚市や湘南がより魅力的になるような方法があればと思う。
宝楽さんのお話し、分かりやすくとても楽しかった。今やっていることを地道に続けていく事、私はコミュニケーションが苦手なので誰かと一緒というのは厳しいが、自治会などの見方も変わっていくのかな？と思う。
テーマも大事だが、この場で人と出会うのも大事。